

# 訳者より著者へ

——「葡萄畑の葡萄作り」——序

岸田國士

青空文庫



何しろ、僕は今まで、劇作家としてのあなたにより多くの親しみをもち、小説家乃至随筆家としてのあなたを殆んど識らなかつた。勿論、あなたの出世作「Poil de Carotte」は、脚本と併せて小説の方も読んだが、それは例の色んな本を涉獵すると云ふ楽しみ、名著を翻くと云ふこと、そのことが既に心を酔はせる、さう云ふ時代の、不真面目とは思はないが可なり無批判な、要するに興に乗じて読む、まあさう云ふ読み方をしたに過ぎない。これに反して、あなたの脚本は、少くとも「[Comedies]」に収められてある四篇は、僕に取つて、ミュッセの戯曲と共に、束の間も座右を離さない、云はゞ宝典とも称すべきものだ。きまぐれな紳士淑

女の一愛読書の程度を遥かに越えてゐることは云ふまでもない。

さう云ふわけで、今度、友人鈴木君から同君らの計画になる

「仏蘭西文学の叢書」の刊行に當つて、僕にも小説を一二冊訳して見ないかと云ふ勧めがあつた時、実は、潜上の沙汰と知りつゝ、ルナルのものならばと云つて、それも始めて読む「葡萄畑の葡萄作り」を、アナトオル・フランスの、これも僕の選択で「鳥料理レエヌ・ベドオク」と共に引き受けてしまつたのだ。

あなたの小説のうちで、一篇だけ代表的なものを選び出すことは六ヶ敷いやうに思ふ。然し、あなたの面目が最も躍如たるばかりでなく、僕自身が一番惹きつけられ、その上、比較的——誠に卑怯な話だが——訳し易いと思つたのは、此の「葡萄作り」だつ

た。尤も此の最後の予想は、翻訳の半ばから見事に覆された。

戯曲以外のあなたの作品を読みながら感じたことは、あなたの戯曲を読み、それを舞台の上で見た、その時に感じ、それ以来、感じ続けてゐる感じを、一層濃厚に、一層広く、一層鮮明に、一層深くしたものと云ふ一言に尽きる。

そもそもあなたは、恐ろしいほど正直にものを言ふ人だ。ぶつきら棒だが、横柄でなく、皮肉のやうで、その実、刺はない。馬鹿にされてゐるやうで、親しみはもてるし、嗤はれてゐながら腹は立たない。憫れみを受けても、自尊心は傷かず、怒られても、笑ひたくなる。あなたは、人にもものを云ひかけながら、自分自身にもものを云つてゐる。人を嗤ひながら自分自身を嗤つてゐる。人

を憫みながら、自分自身を憫んでゐるのだ。

あなたは、左の胸の、何番目と何番目の肋骨の間に、心臓があるとは云はない。こゝに耳をあてろ、この音が心臓だと云ふ。心臓を掴み出して、これが情熱だと云ふ。

人生の二重相を看破した最初の詩人はあなただとは云はない。あなたは、現実の世界と夢の世界とを、更に、眞の世界と偽りの世界とに区別した。そして、その二つの世界が、人間の魂の二つの姿であることを指摘した。心の底に潜む心を捉へ、感覚の裏に眠る感覚を呼び覚めた。聡明なペシミストとしての人生観がそこから生れた。

或る批評家が云つたやうに、あなたは始め辛辣なユモリストと

して人生を戯画化した。しかし、あなたの本性が更にあなたの仏蘭西人としての特質が、そしてあなたの生活の体験が、あなたの人生観を禁慾主義的な微笑で包むやうになつた。それと同時に、あなたの嫌ひな「人間」が、あなたのうちの「人間」と共に、救ひ難きまでも憐むべきものであることを知つた。その憐みは、寛大な愛の萌しにはならなかつたが、少くともあなたを単なる憎しみの心から救つたに違ひない。「自分も人間でありながら、その人間がわたしを人間嫌ひにする」さう云ふあなたの言葉に偽りのあらう筈はない。しかし、そこには、「人間が嫌ひ」であることを誇る気持は毛頭含まれてゐない。寧ろ「人間が嫌ひ」であることとを悲しむ、その甘苦い涙こそ、あなたの有つてゐる詩なのだ。

「裏面の詩」なのだ。その詩こそ、あなたの芸術を浪漫的ユモリスムから引き離して、切々藹々たる人間味の中に浸し、古典的自  
然主義芸術の伝統に結びつけたのだ。

「わたしは自然によらなければ書かない。わたしは生きた<sup>むく</sup>彪犬の背中でペンを拭ふ」とあなたは言つた。あなたはあなたの想像力に信賴しない。此の点で立派に浪漫派と絶縁してゐる。あなたは一々の事物について、その特質を捉へなければ満足しない。此の点で所謂古典主義の拘束を受けてゐない。あなたは言はなければならぬことを言ふために、言ひたいことでも言はないことがある。まして言つても言はなくてもいゝやうなことは決して言はない。此の点で所謂写実主義の領域を脱してゐる。

あなたの芸術を、東洋画の或るものに比較した人がある。口オ  
トレックが直接浮世絵の影響を受けた、それとはまた異つた意味  
で、少くとも、あなたは東洋芸術のわかる人だ。「シユグジエスチヨン暗示」  
と「エヴオカシヨン想念喚起」が、あなたの制作の手法だとすれば、且つまた、  
自然の吐息に耳を傾けることが、あなたの無二の歡びであつたと  
すれば、僕は寧ろ、あなたの芸術的心境が、わが俳人のそれと一  
味相通ずる審美觀念の上に置かれてあると云ひたい。

僕は今、あなたの人生觀を解剖して、思想家としてのあなたを  
論議したくない。あなたもまたそれを快く思はないだらう。あな  
たは飽くまでも悩み多き芸術家として、また村民の忠実な代表者  
として、短い一生を送つた人だ。

僕はまた、此の訳書の巻頭に、あなたの伝記を付け足す必要もないと思ふ。なぜなら、あなたの生涯は、そのまゝ此の一卷の中にあなた自身によつて物語られてゐる。

僕は、此の書を訳しながら、あなたが、あなたの心の上に注ぐ涙を、同じく、僕の心の上に注ぎ得たことを悦ぶ。が、それと同じに、あなたの口辺に漂ふ微笑が、常に僕の唇に伝はつて来なかつたことを告白する。それには、色々の理由もあらうが、何よりも先づ、自分の語学力の不足を嘆ずべきだと思ふ。

「日本人がおれの『葡萄作り』を翻訳した。どれ、見せろ」と、あなたは云ふかも知れない。お見せする。あなたは「悪魔の文字」で書かれた此の訳本をひろげて「成るほどね、なかなか面白く訳

せてゐさうだ、然し、おれには日本語は読めない」かう云つて、また例の微笑を漏らすだらう。



# 青空文庫情報

底本：「岸田國士全集19」岩波書店

1989（平成元）年12月8日発行

底本の親本：「新選岸田國士集」改造社

1930（昭和5）年2月8日発行

初出：「葡萄畑の葡萄作り」春陽堂

1924（大正13）年4月8日発行

※底本は、物を数える際や地名などに用いる「ヶ」（区点番号5-86）を、大振りにつくっています。

入力・tatsuki

校正・・Juki

2006年2月20日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

訳者より著者へ  
——「葡萄畑の葡萄作り」——序

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫  
著者 岸田國士  
URL <http://www.aozora.gr.jp/>  
E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)  
作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU  
URL <http://aozora.xisang.top/>  
BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>  
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。  
<http://tokimi.sylphid.jp/>